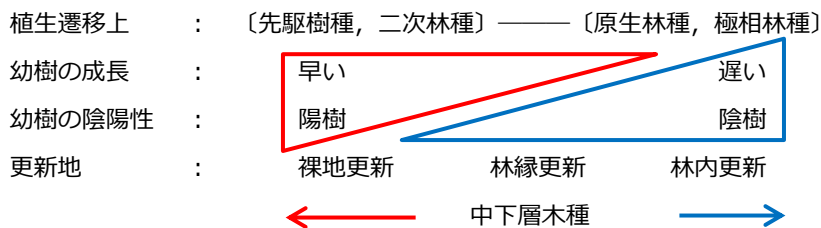


植林樹種特性一覧表の使用上の注意事項

公益財団法人国際緑化推進センター

1. この表の目的はインドネシアの森林開発地（鉱山跡、湿地開発跡地、放棄農牧地等）の修復植林候補樹種について、その生育環境及び生態的特徴を記載し、第一次の植林樹種選択時に役立てんとするものである。
2. 植林環境（乾燥、湿地等）に対する耐性（耐あるいは弱）は、大多数の樹種群に比較して耐性があるということである。無記載の欄は普通の（平均的）耐性であるか、あるいは不明であることを意味する。例えば低温耐性等の欄で、無記載の場合は大多数の熱帯・亜熱帯林の樹種が耐えうる程度の最低温度（熱帯：10～15℃、亜熱帯又は高山性樹種では5～10℃前後）に耐性を持つ場合が多い。また、同じ「耐」でもその程度に差があるので、その詳細については肩付番号の文献を参照されたい。
3. 「根耐」は、軽度な霜害や火災に際して、地上部は枯れても根部は生き残り、降雨後に萌芽することを意味する。
4. 文献欄のEは、推定（Estimation）及び／又は経験（Experience）を意味する。例えば、前者は文献中の記載で、「川沿いで洪水があるような場所にも生育する」という記述があれば、浸水欄に「耐」とした。経験には、インドネシア林業者等の現地有識者のヒアリング結果を含む。
5. 幼樹の成長欄については、異なった概念が混在して記載されていることに注意が必要である。ここでは概略下記のような関係にあると仮定する（三角形は成長の遅速や陰陽性の大きさを意味する）。



注) 林縁更新は、大ギャップ更新を含む。